

MJ 進路通信

群馬県立前橋女子高等学校
進路指導部
令和4年12月1日(木)第29号

3年 これからの学習計画・意識の持ち方

「調整」か「積み重ね」か→国公立2次まで「夏休み2回分(以上)」



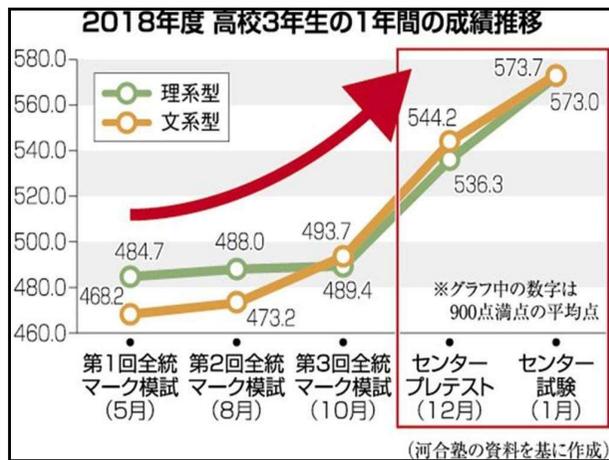
受験本番が近づいてきました。ここまで来たからには、なんとしてでも「合格」に手をかけたい！そのためには、ラストスパートで「ぐん！」と伸びる過ごし方をした者が勝つ側に回ります。

「現役生は最後(まで)伸びる」ということを聞きますよね。少し古いですが、河合塾提供の現役生模試推移

のグラフ。右図は12/10 センタープレからセンター試験(当時)に向けて、成績が約30点上がっています。「え？30点も？」「30点しか上がらないの？」。これは「平均」で上がらない人もいれば、爆上げする人もいます。

では、どういう人が上がる(爆上げする)のか。上がる(爆上げする)考え方を伝授しよう。

まず1点目。早稲田(2/12 スタート)のような日程の遅い私大個別試験、そして国公立2次試験[前期]の2/25まで、まだ80日(以上)ある。つまり、「夏休み」が2個分ある。どれだけ知識が積み重ねられる時間と余地があるのか、ということだ。この時期の「演習」。



最後伸びない生徒は「得点ばかりを気にしている人」。もう「調整」に入っているのですか？「何点取れたか」ばかり気になっているとこれ以上得点は上がりませんよ。今演習をやっている目的は、「傾向に合わせて行く訓練」と「知識のヌケ・モレチェック」です。後者の「知識のヌケ・モレチェック」、これを強く意識し、できなかつたところ、弱い分野を「得点できるレベルまで」徹底的に入力する(なんとなくの復習ではダメ、ということ。次出たら絶対に仕留める！そういう意識で覚えるのです)。演習後の対応が爆上げの鍵を握ると心得よ。

そして、2点目。今、一生懸命がむしゃらにやっている生徒がほとんどだろう。そのがむしゃらを「どの科目でどのくらい得点を取る(上げる)、どのくらい知識を積み重ねる」ということに向けてもらえないか？合格するためには、「誰もが出来ているところが自分は出来てない」分野を、即克服しなければならない。知識を積み重ねるために、壁を突き破るために、とにかく工夫すること。工夫することにも頭を回すこと。がむしゃらに工夫するのだ！

ラスト3点目。勉強に集中できるように心身を持っていく工夫をすること。本番、力が発揮できるように自分を持っていくこと。寒くなってきたこの時期、気力、体力が大事。

★もう一度確認しよう。そして、自分に言いきかせよう！

- ①あと「夏休み」が2個分ある。まだまだ知識は積み重ねられますよ！
- ②得点を、知識を「積み重ね」る意識と工夫を。みんなができていて自分が出ていないところを潰す！
- ③本番力を発揮するために「心」と「体」をどう万全に持っていくかの対策を！

◎学習計画

I期	12/1(木)~12/22(木)	冬休み直前までの22日間 [約3週間]
II期	12/23(金)~1/5(木)	終業式から冬休みの14日間 [約2週間]

時間がどれだけあるのか確認しながら、知識を積み重ねていく。演習によって、精度を上げていく。共通テストと2次試験(私大)のバランス。

◎三者面談に向けて

先の大勝負で勝つために、今、シミュレーション

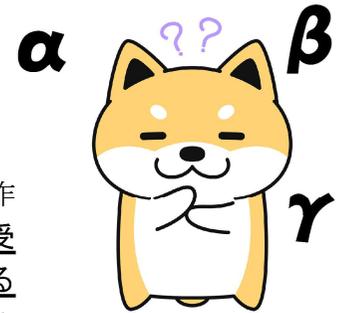
現時点で暫定的に、いくつかの出願パターンを理解していく作業です。それを本人、保護者、担任で共有する。共通テストを受けてから「国公立、私立一般入試はどこに出願しようか」となるのは、勝負では「後手」に回ることになります。現時点の力と残りの伸びを考慮してで、いくつかのプランを考えておく。それは現時点での自分の学力と向かい合うことにもなります。そうすることで、その位置から何をどれだけやるべきかが明確になります。現時点の自分の学力を無視して、高い目標を掲げている生徒もいます。高い目標を掲げること、夢を追うことが問題ではありません。問題は次にあります。自分の学力の位置を把握せず(または無視して)、難しいことをやって結果、学力が身に付いていかないというものです。縄跳びで例えるならば、「二重跳びがまだできないのに、ずっと三重跳びの練習をしている」ようなものです。今の学力を冷静に把握し、そこから一つでも多く知識を積み重ねていく。目標とする大学に確実に近づいていきます。「受かるか受からないか」は結果です。しかし、その「受かる」という確率を少しでも高めていく作業が受験勉強です。受かるという結果を出すために、「受かる確率を上げる受験勉強」をしてください。

まだ時間がある→最後まで伸びる→「受かる確率を上げる」勉強を

ただ、先ほど述べたように「まだ時間がある」ということです。模試が終わってから共通テストにかけて(もっと言うと、共通テスト後から二次試験まで)一番伸びる科目もあります。根拠なく「やれば伸びるんで」「だから下の大学は考えません」という人は現時点での学力を把握できてないのでなかなか伸びません。現時点での自分の学力や穴を理解し、「だから何をどれだけやれば伸びる」と見処が立っている人は受かる確率が上がっていきます。

私大の共通テスト利用から積極的に

国公立志望者も多く、授業でも最後は共通テスト対策をおこなっていく教科が多いです。共通テスト利用で私大が押さえられるとその後の出願戦略を有利に進められます。



約3週間
約2週間
の16日間、駿台模試までの28日間

休業。授業（の進み）が止まる。
（容量）を広げる。
て実行する。

点をとりたい教科…「出力」重視

チ

お願いをして（保護者の皆様よろしく申し上げます）、買ってもらう。赤本は“季節もの”なので、冬（受験時期）を過ぎると書店から無くなってしまふ（今はネットで買えるけどね）。だから、この時期に必ず購入する。購入したら、自分が勉強するスペースで自分の視界に入るところに赤本を置こう。モチベーションが上がる。そして、飾るだけではもったいない。中には、過去問だけではなく、入試科目や卒業生の声、傾向分析、大学の授業や学生生活の情報などが掲載されている。しっかり読み込もう。

国公立2次試験、私大個別入試は

共通テストと違い、国公立2次試験や私大個別入試は大学ごとに問題が作られているのが特徴だ。よって、入試問題はその大学独自の傾向が出る。一口に「受験学力は2次力・記述力をつける」と言いますが、当然その通りですが、それに加えて志望大学の問題の傾向やクセを知りそれに合わせていく必要があります。「世界史」を例にとって話をします。一橋大学の世界史は「400字論述3問、普通に教科書を覚えても対

応できないくらい深い問題が出る」けれど、傾向を知れば「第1問は中世ヨーロッパ、第2問は近代欧米、第3問は近現代のアジアか国際関係」と決まっております対策できるところは当然ある。筑波大学世界史は「400字4問」、傾向は「全範囲から出ている」。早稲田大学は文学部は「記述がメイン」、法学部では「論述問題あり」。社会科学部は「正誤問題が多い」、

「入試委員会で作られているから」
このように、この2年生の時期に
自分の学力をどこまでどの方向に持

の人へ

「勉強する」ことに慣れましょう

勉強は毎日真剣に何時間も勉強しないといけなくなる。こ
ツプって、思った以上にきついもの。だから今の時期から
る習慣をつけることで、受験勉強を本格的に始めるときに
いがなくなって、スムーズに勉強できるようになる。

半前のコロナによる臨時休校の悪い影響として、「学習習慣が身に付いていない」と
とが一つ挙げられています。「学習習慣の早期確立」が第1志望合格のカギです。

「勉強時間」を確保することが大事

から勉強の癖をつけることが鍵となってきます。毎日30分でもいいから机に
習慣をつければ合格に近づきます。」（『ドラゴン桜』より）

の勉強時間は、基本は3時間から始めましょう。受験生（高3）の夏休みの勉
は平均1日10～12時間。まずは3時間から始めて、春休みには8～10時間自分で
勉強できる体力をつけるのが理想的ですね。（受験マガジン『合格への道』高2生の勉強スケジュール 3学期以降）

「先んずれば人を制す」が受験の常道

時間にしても勉強量にしても、先に始めた人の方が多くこなせるのは
当然。大学受験に関しては、この「先に始める」という点が大きな差に
なる。今現在自分より成績のいい人でも、1年前は自分とさほど変わら
績だった…ということはよくあります。逆に言えば、今は同じくらいの成績だったと
、1年あればいくらかでも差をつけることが出来るということです。「まだ2年生だし
」と油断せず、今日から受験を意識して勉強してみましょう。**第1志望に届かなかっ
不合格の人に話を聞くと、ほとんどが「間に合わなかった」「仕上がらなかった」「後
あれば…」**だ。つまり、始めるのが遅かったのが落ちる要因の一つということだ。
験は長い戦い、自分との闘いですが、頑張れば、早く仕掛ければ、報われる確率は上
今から、階段を一段一段上がるように、学力を積み重ねていこう。

冬休み～冬休み明け

- | | |
|----------------|----------|
| ①冬期講座（全学年・希望者） | 12/26～28 |
| ②実力テスト（1,2年） | 1/10,11 |